

氏名(国籍)	さい 崔	ぎょう せい 曉 倩 (中国 (台湾))
学位の種類	博 士 (社会経済)	
学位記番号	博 甲 第 2763 号	
学位授与年月日	平成 14 年 3 月 25 日	
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当	
審査研究科	社会工学研究科	
学位論文題目	Essays on the Relationship between Industrial Organization and International Trade (産業組織と国際貿易の関係について)	
主 査	筑波大学教授	學術博士 吉 田 雅 敏
副 査	筑波大学教授	P h . D . (經 済 学) 太 田 誠
副 査	筑波大学教授	P h . D . (応 用 經 済 学) 黒 田 誼
副 査	筑波大学助教授	學術博士 鄭 小 平
副 査	筑波大学助教授	博 士 (社 会 經 済) 豊 谷 整 克

論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は、産業組織論の枠組に国際貿易の要因を導入し、簡単な理論モデルを作成した上で、台湾の産業（企業）を対象にした実証的分析を行っている。産業集中度、マーケットシェア、製品差別化などの産業組織論における伝統的な市場構造要因と輸入、輸出、為替レートなどの国際貿易要因との関連を視野に入れることで、これまでなされなかった台湾産業についての計量分析に基づく新しい結果を提示している。計量分析のための推定方法として、パネルデータを利用した一般化積率法を用いている。

本論文は4章から構成されている。第1章は本論文の研究目的を述べている。第2章は、1986-1996年の期間における台湾の製造業115社を対象にして、市場構造と国際貿易の諸要因が企業利潤率にどのような影響を与えるかについて分析を行い、以下の実証分析結果を得ている。(1)市場構造要因よりも国際貿易要因の方が利潤率へ及ぼす影響が大きい；(2)市場構造要因の中では、集中度よりもマーケットシェアの方が利潤率へ及ぼす影響が大きい；(3)台湾通貨（元）高は、製造業全体の利潤率を引き下げる。

第3章は、為替レートと国内価格・輸出価格の関係を特定化したモデルを用いて、1986-1992年の期間における製造業関連16産業の価格と為替変動の関係を推定し、国内価格と輸出価格の乖離をもたらしている要因を分析している。実証分析結果として、為替レート変動から輸出価格への転嫁は不完全であることを検証している。また、各産業の輸出価格と国内価格の間の乖離は為替変動によるものであり、乖離の程度は国内の市場構造のみならず輸出構造にも依存することを明らかにしている。

第4章は、為替レートの変動が原材料価格や生産設備費用など輸入サイドへ与える効果を考察している。産業の期待利潤と対外依存度の関係をモデル化した後、1981-1994年の期間にわたる製造業19産業のデータを用いて、対外依存度と利潤の関係について実証分析を行っている。分析結果として、台湾経済における対外依存度は他の工業国にくらべ非常に高く、さらに台湾元高による輸入された投入財の価格引き下げ効果があることを検証している。

第5章は、本論文の主要結果の吟味・評価を行っている。1980年代後半からの通貨高が進行している台湾経済は、国内市場要因のみならず貿易要因の影響も強く受け、製造業の貿易構造が大きく変化していることを指摘している。また、いくつかの政策的インプリケーションを提示し、内需産業に対しては市場の活性化と参入障壁の

解消を図る政策が最も重要であることを示唆している。

審 査 の 結 果 の 要 旨

崔曉倩氏は、産業組織論と国際貿易に関する重要な経済問題に対して新しい理論モデルと分析手法を提示し、興味深い結果を得ている。本論文は理論的研究と実証的研究がバランスよくなされ、崔氏が産業組織論と国際貿易の研究者としての高い能力を有していることを窺わせるものである。特に、限られたデータから分析目的と整合的な理論モデルを作成した上で、計量経済学の推定・検定手法を適用することには優れたものがある。ただし、企業モデルと産業モデルの定式化には明確な区別がなされておらず、この点の改善が望まれる。

本論文をもとに専門学術雑誌である Review of Asian and Pacific Studies（審査制度有り）に1編が掲載予定であり、全体としてレベルの高い学位請求論文になっている。

よって、著者は博士（社会経済）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。